

1 研究主題

感じ・認め・つなぎ、学び合う子どもの育成  
— ICTを効果的に活用した主体的に生きる人づくり—

2 研究の具体

(1) タブレット端末の授業や持ち帰っての活用の工夫

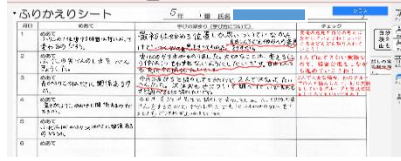
課題設定や交流場面での活用

- 映像や統計データ等を視覚的に示すことで、自分で解決したくなるような課題設定ができる。
- 個々の考えや変容を ICT を使って視覚化、共有できるようにすることで、協働的な学びが発生する。



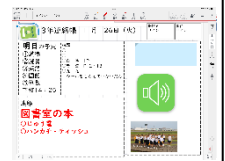
振り返りでの活用

- ICTを活用することにより、教師と児童だけでなく、児童間でも共有することが容易になり、学びの広がりや深まりが得られる。
- 振り返りの視点を明確にすることで、次の学びにつながる気づきが生まれる。(AAR)



持ち帰っての活用

- 連絡帳は、画像、音声も添付でき、個別記入で保護者との双方向連絡が可能である。
- 宿題はオンラインで添削可能、音読や調べも画像、録音、動画での提出等、多様な運用、取り組みが可能である。
- **トラブルがあっても指導しながら運用する。**



(2) ICT を活用した個別最適な学びの工夫 (自由進度学習の取り組み)

- 児童に委ねる部分の拡大 (場所・時間・相手・学び方・内容等の自己選択・自己調整)
- 教師の準備の拡大 (教材、資料、環境整備、見取りや個別支援の具体的な手立て等)

主体的に学ぶ力

3年算数「表とグラフ」

単元学習プランで学習の見通しを持たせ、学ぶ相手 (自分で、友だちと、先生と) や、学ぶ場所を自己選択し、パフォーマンスチェックで自己評価、ジャンプコーナーで発展課題にも挑戦できる学習展開にした。

単元学習プラン

単元名	教科	単元	単元目標	学習目標	学習時間	学習形態	学習場所	学習ツール
1. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
2. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
3. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
4. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
5. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
6. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
7. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
8. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
9. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット
10. 表とグラフ	算数	表とグラフ	表とグラフの読み取り、作成	表とグラフの読み取り、作成	24	個人	教室	タブレット

4年社会「自然災害からくらしを守る」

場所、相手、資料、調べ方、まとめ方等委ねる範囲を広げると、教師の準備が拡大していくが、学習プランをもとに学び方を自己調整し、自分で解決する、友だちから学ぶ等、多様な問題解決の方法も身に付けていく。



5年理科「ふりこのきまり」

導入、課題設定まで一斉指導、実験部分を自由進度学習で、学習計画 (実験の順序・時間配分) やグループ構成、学習内容 (基本～発展) まで児童に委ねていくと、児童の主体性は増していくが、見取り、個別支援が難しくなっていく。発展課題としてプリントや制作物まで十分に用意しておくことで、学びが深まった。



3 研究の検証及び改善の手立て

- タブレット端末を日常的に持ち帰り活用することが、児童、教師の情報活用能力のスキルアップにつながるとともに、児童、教師、保護者のつながりが深まった。
- ICT を日常的に活用した授業や自由進度学習を経験した児童は、学習意欲が向上し主体的に学ぼうとする態度が育ってきたが、自分の学びを客観的にとらえ、見通しをもって問題を解決する力は短時間で身につくものではなく、継続的かつ計画的に自由進度学習を進める必要がある。
- 自由進度学習に取り組むと、教師の準備が多くなり負担が増すが、効果が得られる教科や単元を精査し継続的に取り組むことで、実践の蓄積、教材の整備等、環境整備が進み学校全体のメリットとなる。
- 自由進度学習を進めるにあたって、全校でカリキュラムマネジメントに取り組むことは、教師の指導スキルの向上につながる。